

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2020年1月～2020年12月データ

▶ 入院実績

項目	
新規入院患者数	441名
1日平均患者数	90.8名
平均在院日数	74.1日
在宅復帰率（70%以上）	88.0%
入院時重症度（30%以上）	40.4%
退院時回復割合（30%以上）	80.6%
1日あたり平均リハビリ実施単位	7.2単位
実績指数（アウトカム指数）	43.9

▶ 通所リハビリテーション

利用実績	件数
利用件数	
クイック（1時間～2時間利用）	483
オーダー（3時間～4時間利用）	689
ベーシック（6時間～7時間利用）	816
利用延件数（1ヶ月平均）	
クイック	2,569
オーダー	4,286
ベーシック	5,333
介護度割合（%）	
要介護1	13
要介護2	31
要介護3	20
要介護4	15
要介護5	3
要支援1	4
要支援2	14
目標達成による卒業者	
クイック	4
オーダー	8
ベーシック	1

▶ 地域医療連携室

項目	件数
入退院支援加算件数	449
相談延件数	5,104
入院相談	12
背景要因	4
カンファレンス	1,805
家族	0
職業・住居	6
経済	53
退院支援（転院・入所）	522
在宅支援・維持（外来相談）	13
その他	47
退院支援（在宅）	2,641

▶ 栄養科

項目	件数
患者食数 一般食	49,697
特別食（加算）	31,079
特別食（非加算）	11,950
患者食数 濃厚流動食	3,669
通所リハビリテーション食数	5,235
入院栄養食事指導	314
NST 回診延べ患者数	73
栄養アセスメント件数	650

▶ 紹介入院患者数

紹介元医療機関名	件数
総合上飯田第一病院	121
名古屋医療センター	89
大隈病院	64
東部医療センター	35
春日井市民病院	20
愛知医科大学病院	14
西部医療センター	10
名古屋大学医学部付属病院	7
名鉄病院	7
小牧市民病院	4
名古屋市立大学病院	4
名古屋第二赤十字病院	3
公立陶生病院	2
旭ろうさい病院	2
その他、市内の医療機関	26
その他、市外の医療機関	12
その他、県外の医療機関	9

上飯田リハビリテーション病院

院長 水野 正昇

➤ 特徴

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による個別リハビリテーションと看護師、介護士のケアプランによるリハビリテーションを実施し、管理栄養士による栄養指導を行っています。

毎日の生活が障害を取り除くリハビリテーションになるように、患者さま、利用者さまを主体として様々な職種がチームとなり自宅復帰、社会復帰、生活支援に取り組んでいます。

生活支援については通所リハビリテーション、短期集中リハビリテーション入院を行っています。

➤ 今後の目標

- 安全で安心な療養環境を提供する
患者さま、利用者さまが安心してリハビリテーション医療を受けられるよう今まで以上に安全な医療の提供に努めます。
- 地域医療連携を推進する
地域の救急医療が円滑に機能するよう受け入れを速やかに行い、効果的なリハビリテーションを行い早期退院に努めます。
- 法人内連携の強化
地域のみなさまが安心して生活できるよう法人内連携の充実を進めます。

看護部

看護部長 森川 和美

➤ 特徴

身体の状態だけでなく、障害を負うことで変わっていく今後の人生に、全職員一丸となって総合的にサポートしていく事ができるよう、チームアプローチを実践しています。

そして、よりよい状態で、地域、社会、家庭に復帰していただけるよう、最善の看護・介護の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション入院料1

看護：回復期リハビリテーション看護師3名

NST 専門療法士3名

介護：アセッサー 3名

➤ 今後の目標

基本方針

1. 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する
2. 看護・介護水準向上のため、自己啓発・相互啓発に努める
3. 看護・介護職の専門性を自覚し、他職種との連携・チーム医療を推進する

目標

患者・家族を笑顔にできる看護・介護の実践

通所リハビリテーション

看護師長 中島 智子

➤ 特徴

利用者さまの生活スタイルやご希望に応じたコースを選択していただくことができます。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による個別のリハビリテーションを中心に看護師や介護士等と連携しながら利用者さまと目標を確認して取り組み、通所リハビリテーション卒業者が13名、他のサービスへの移行者14名の結果が得られました。利用者さまやご家族さま、ケアマネージャー、他のサービス事業者を含めたリハビリテーション会議を開催し、自立支援に向けたサービスを提供させていただいています。

➤ 今後の目標

利用者さまを積極的に受入れ、充実したサービスの提供や質の向上に努めます。

生活機能の改善に努め、通所リハビリテーションの卒業や他のサービスへの移行に取り組みます。

地域医療連携室

医療ソーシャルワーカー主任 佐藤 顕世

➤ 特徴

地域医療連携室は、看護師1名、ソーシャルワーカー 3名で生活問題の相談や各医療機関から転入院の相談を受けています。2020年の医療福祉相談の相談実績は、入退院支援加算の算定件数449件で、うち地域連携診療計画加算の算定は180件ありました。医療福祉相談の延べ相談件数5104件、うち在宅退院に伴う相談延べ件数は2641件ありました。他院からの転入院の相談数は845件でした。

2020年10月に愛生会紹介入院センターを開設し、他院からの転院相談を法人一括で対応できるようになりました。

➤ 今後の目標

近隣の医療機関の紹介数を増やし、紹介から転院までの日数の短縮に努めます。また、回復期リハビリテーション病棟の適応が困難な紹介や、亜急性状態である場合は、総合上飯田第一病院との連携を強化し、法人としての受け入れを実施できるよう、紹介センターを通じて調整や相談をします。また、退院後の生活も見据えた支援と、回復期退院後の生活フォローはもちろんです。職業アセスメントも実施し、退院後の就労・復職支援を行います。産業医や人事担当者との連携を強化しています。近年、身寄りのない患者さまの入院対応の件数も増えており、当院では厚労省の身寄りなし入院のガイドラインを基に倫理委員会等の院内での支援体制を構築し、入院の受け入れができるよう対応していきます。地域医療連携室では院内だけでなく、地域の様々な相談にも対応できるよう、多職種で連携し、問題解決を目指します。

リハビリテーション科

リハビリテーション科科長代行 石黒 祥太郎

➤ 特徴

施設基準：脳血管等リハビリテーション（I）、運動器リハビリテーション（I）

人 員：理学療法士31名、作業療法士26名、言語聴覚士12名

当科は主に回復期病棟入院中の患者さまに対し、最大限の回復を目指しリハビリテーションを提供。職員には生活期を含めた様々な経験を積ませ、広い視野で最適なりハビリテーションを選択し、患者さまへ提供できるよう育成しています。

地域医療に貢献するため、市民向けにリハビリ講座も開催を予定していましたが、今年は新型コロナウイルス感染の影響で開催できませんでした。

➤ 今後の目標

1. さらなる治療効果（退院時 ADL、実績指数）向上のため、人材育成・業務改善に努めます。
2. 患者さまやご家族に安心していただけるよう、引き続き入退院支援の強化に努めます。
3. 地域医療に貢献するため、リハビリ講座の再開や法人内外の連携強化を推進します。

栄養科

栄養科主任 藤田 寛子

➤ 特徴

各病棟に専任の管理栄養士が在籍し、計2名で栄養管理を行っています。入院時に栄養に関する聞き取りをもとに栄養評価を行い、低栄養およびリスクのある患者さまを早期に発見し計画を立案します。その後も全患者さまの摂取状況・体重変化等を確認し、必要な患者さまには BCAA 飲料を負荷する等リハビリ効果を高める栄養管理を目指しています。

給食部門は全面委託しています。定期的に行事食を提供するなど、患者さまに喜んでいただけるよう努めております。

➤ 今後の目標

- ・患者さま個々に合わせた栄養管理を提供する
- ・再発を防ぐために定期的に栄養指導を実施する
- ・給食満足度の向上に努める

薬剤部

薬剤部 竹川 真由美

➤ 特徴

適正な薬物療法を支援する為、医薬品の管理・供給、情報の収集・提供を行っています。
患者さまに安全で安心してお薬を服用いただくために、お薬を一包化し、わかりやすく服用しやすい状態にすることによって、患者さまのコンプライアンス向上に寄与しています。

➤ 今後の目標

- ・ 医薬品を有効に使用するよう適正使用に努めます。
- ・ 薬剤の多剤投与「ポリファーマシー」軽減に努めます。
- ・ チーム医療の推進に努めます。
- ・ 持参薬の内服漏れがないように努めます。

専門医資格一覧

水野 正昇 院長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

伊東 慶一 副院長
【指導医】日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科指導医
【専門医】日本認知症予防学会 認知症予防専門医

成瀬 隆裕 整形外科部長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

大島 祐之 整形外科部長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医
【認定医】日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
日本整形外科学会 認定スポーツ医
日本医師会 認定産業医